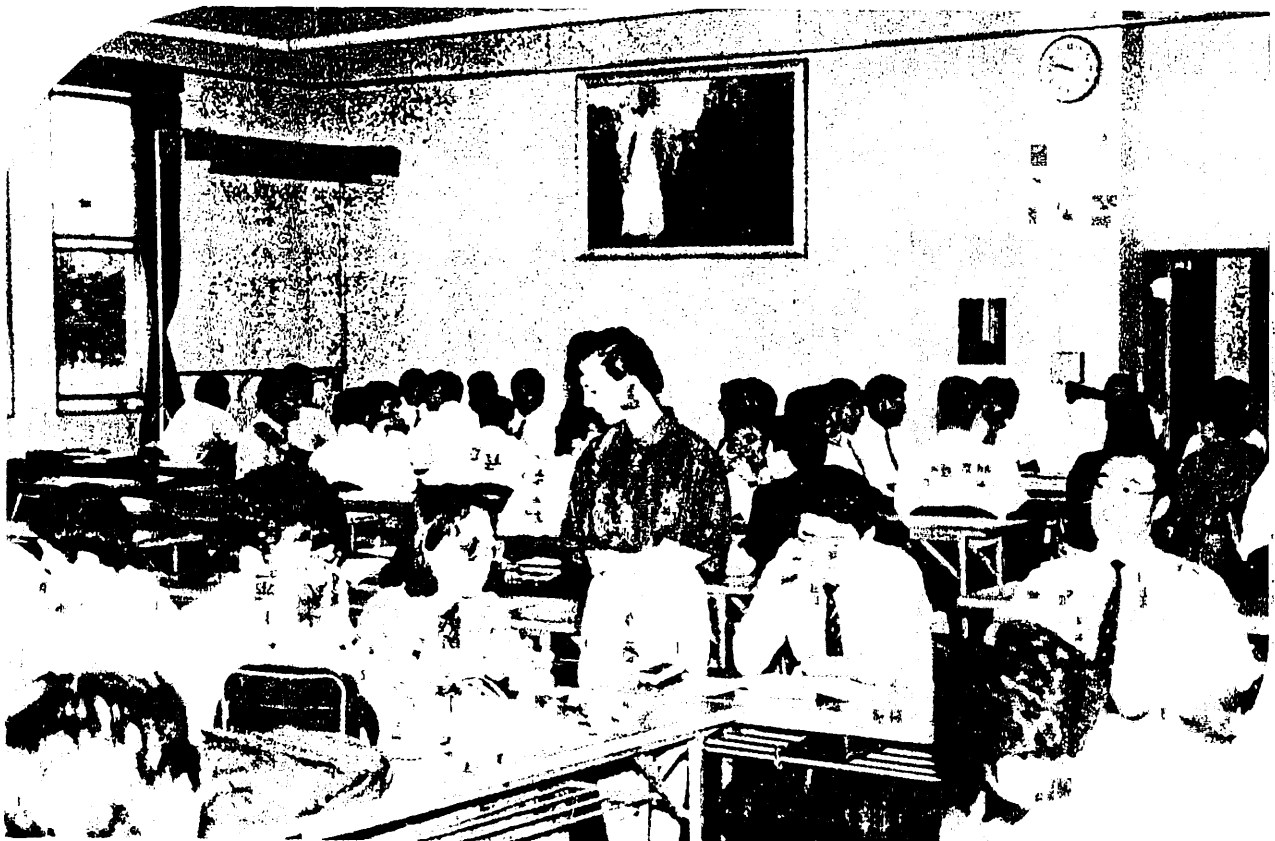


教育センターだより



—— 各国の教科指導法を語るAETのアラナさん ——
 〈高校教職経験者(5年経過)研修講座〉

◇ ——— も く じ ——— ◇

・夏季教育セミナー・シンポジウム.....	2
同 第1分科会.....	2
同 第2分科会.....	3
同 第3分科会.....	3
・相談室日記.....	4
・教育相談 Q&A.....	5
・教育風土記その8 理科の巻②.....	6
・教育研究発表会案内.....	7
・研修講座紹介(中学校理科第2分野).....	8
・おしらせ.....	8

— 第 5 5 号 —

平成4年10月28日

秋田県教育センター

秋田市仁井田緑町4番2号
 ☎ (0188) 32-3594

第5回 夏季教育セミナーから シンポジウム 「児童生徒の心をとらえるこれからの学校教育」

- ☆ コーディネーターの秋大教授 小松元 ☆
- ☆ 也、パネリストの会社社長 京野学 ☆
- ☆ 大館市立東中学校校長 佐藤忠信、魁 ☆
- ☆ 新報社編集局次長 佐藤暢男、県生涯 ☆
- ☆ 学習センター相談員 松葉谷温子の名 ☆
- ☆ 講師からの提言などの要旨は次のとお ☆
- ☆ Study. ☆

京野 わかる・魅力ある授業が第一。視聴率百%の授業を実施して欲しい。そのためには教科研究に十分時間をかけることが必要であり、資料収集・整理やその活用などを工夫する必要もある。また、教師が時間的余裕と心の余裕ももてるよう教育行政の配慮を願う。うまい教え方を互いに研修し継承して行ってほしい。

佐藤（忠） 十年一昔というが、元の勤務校に再び赴任し、当時と比較すると子供たちは変わってきている。新学習指導要領が全面实施される今、子供の心をどう発掘し、どう支援していくかに取り組むことが最大の課題である。自分で考えて、判断して、行動していく力が学力の向上につながるかと確信する。

佐藤（暢） 戦後教育を受け、のんびり過ごしたというのが実情だが、日々の生活の苦しさを忘れる場所が学校であった。遊びの中でいろいろな喜びや驚きを体験した。不登校の話など聞くにつけ学校は子供たちに楽しい場でないのかと不安に思う。教育で大事なものは社会人として

の常識を身に付けさせることではないか。

松葉谷 日ごろ、相談を担当している自分が効果的な相談ができないで悩んでいる。相談は相手の思いは何であるか、相手の心に添ってゆとりをもって聞いていくことだと思ふ。現代は核家族など人間関係が希薄で、人間としてもまれることもなく自立したと思う人が多い。自己を確立していくことを学んでほしい。

小松 教師は大きな存在であれと言う一方で小さくて良いという逆の見方もある。どちらも根拠を持っていくことが教育の難しさである。無気力、無感動、無作法は大人が感動の表し方やものの発見の仕方、人との接し方を教えなかったからではないか。子供を責める前に自分たちが何をしなかったかを考えるべきである。



シンポジウム風景

学力を高める教科指導 の在り方・第一分科会

一 発表内容

「学力を高める」というとき、新しい学力観を抜きにして語ることはできない。それは、何よりも時代の変化に主体的に対応して生きていく能力であり、学習意欲、思考力、判断力、表現力等を内容としている。そして、これらを育成していく過程で、新しい状況に活用できる知識や理解、技能を獲得させていくことが大切である。

特に、児童生徒の内発的な学習意欲に基づいた学習を推進していくとき、教師は、一方的に「教える」姿勢から「共感的理解」や「支援」する姿勢に変わっていかなければならない。評価や教材研究の在り方についても、個を生かす視点から再考していく必要がある。

二 協議内容

Q 中学校では高校入試の問題があり、少しでも多くの知識を与えたいという気持ちがある。「新しい学力観」に立ったとき、この問題は解決できるのか。また、基礎基本の問題をどう考えているか。

A 県内のすべての学校について、我々が調査した結果では、学力向上対策の第一位に「学習意欲の向上」があげられている。新しい学力観といっても従来先生方が考えておられたことを時代の要請に従って整理・明確化したものだ

考える。

基礎基本については、学習指導要領を基本に据え、個への配慮を十分考慮しながら考えたい。

三 今後の課題

新しい学力観に基づいた授業の在り方を実践の場で具現化し、その成果の検証と新たな課題について検証する。

その結果は、平成五年度末に刊行する。

個を生かす教育指導

の在り方・第二分科会

一 発表内容

(1) 小学校 ①個人差、個性の違いに配慮した学習活動においては確実に児童の意欲が向上する。②明確な学習目標がやり遂げる満足感へつながり、相互の認め合いが個々の児童の有能感に結びつく。

(2) 中学校 ①生徒自身が素材を教材化するこ
とで、自らの課題をより深く追求しようとする意欲をもつことができる。②生徒どうしの学び合いを強く意識させた学習は、一人一人が生き生きと意欲をもって学習に臨むようになる。

(3) 高等学校 ①体験学習をした生徒の多くは自分や他人の新しいよい面を発見している。②体験学習が、生徒個々の「未来や進路」を考えるための活動経験になっている。

二 協議内容

各学校の「個」にかかわる研究テーマと課題

の紹介では、「平沢小」||「個人差に対する形態」||教材作成や共通理解のための時間確保が難しい」、「東雲中」||「すべての生徒に出席を」||教育相談的配慮に重きを置いて進めている」、「千畑中」||「自分たちで課題を見つめられる」、「自己評価カードを活用している」等が述べられた。また「個人差と個性の違い」についての質問や「基礎基本の重視と個性重視」との調和の難しさ等の意見があった。

三 今後の課題

①個に応じた学習材の蓄積と管理運用、②生徒相互が刺激し合い高まっていくための生徒指導的な配慮の在り方、③施設で体験したことの意味をどう掘り下げ生きた教材とするか等。

また、協議の中で出されたさまざまな疑問や意見はセンターの課題としてとらえ、研究のまとめの中で応えるよう努力していきたい。なお平成五年三月には「個を生かす教育指導の在り方」に関する手引書を刊行する予定である。

地域の教育力を生かした特色ある学校づくりの在り方・第三分科会

一 発表内容

かつて地域の持っていた教育力（人間形成機能）が大きく変化し、低下していることは、いろいろな調査・事例から報告されている。

本研究は、教科・特別活動・学校行事等教育活動の全領域にわたって、つぎの三つの視点から「特色ある学校づくりの在り方」を探っている。

こうとするものである。

(1) 地域社会の急激な変化による、地域の教育力の低下

(2) 地域の教育的資源の積極的な活用

(3) 学校週五日制と学校運営

平成二年度は先行研究と実態調査を中心に分析・検討した。三年度は、鉱工業・漁業・農林業・都市的要素等に特徴のある地域の教育力を有機的に構造化した。本年度は三年計画の最終年次になっている。昨年度の調査・発掘をもとにして協力校（小学校三校、中・高等学校各一校）での実践を中心に研究発表を行った。

二 協議内容

課題別協議会では、研究協力校の具体的な実践を中心に、地域の教育力の発掘・活用について地域が抱えている多くの問題点や課題が出された。特に学校週五日制との関連で各学校ともいやおう無しに地域とのかかわりを持つ必要性からか質問が活発であった。テーマが学校運営と密接に関連しているためか、校長・教頭の参加者が多く、いろいろご意見をいただいた。今後研究を進める上での参考にしたい。

三 今後の課題

急激な社会の変化に伴って失われた教育力を回復させるには多くの課題を抱えているが、地域と学校の再結合による教育力の回復・活用の方策を探り、研究をまとめるに当たって、視点を明確にして、学校ですぐ活用できるような手引書の作成に努めたい。

九月〇日

大きな声で「今日は！」と玄関から入ってくるわんぱく訪問者。思いつき話し、汗だくになって遊んで、スッキリした表情で帰っていく。どうしてこの子が学校に行けないのか……不思議な気持ちになってしまふこともある。

かと思うと、せっかくセンターまでやってきても、車から降りてくることができず、ささやくような声で「おはようございます」と挨拶だけして帰ってしまう小さな訪問者もいる。

「学校なんか行きたくない」、

「学校に行きたくてもどうしても行けない」、「学校がこわい」。訪問者たちの心の中はもろん様々。でも、共通して言えるのは、どの子供の心の風船もパンパンに膨らんでいること。ちょっと触れただけでも割れてしまいそうな風船。心地よいはずのお日様のぬくもりでさえ、膨らみ切った風船にとっては割れる原因になってしまふことがある。

いつからか「心の居場所」をすっかり見失ってしまった登校拒否（不登校）の子供たちが、平成三年度の文部省調査によると小学生約一万三千人、中学生約五万四千人もいる。「学校」がその場所になるのはもちろん、「家庭」こそ子供たちの真の「心の居場所」にならなくてはいけないと思う。自分の父親の職業、年齢さえ知らない子供たちが増えているなどという話を

聞くと、一層その感を強くする。

今日初めて相談に来所したKさんの母親に、一時間半も泣かれてしまった。自分一人で話し、自分で反省し、自分で自分を責めて泣いた。子供同様に、この母親が今求めているのは、しっかりと話を受けとめ聞いてくれる人なのだ。

脅しや力で子供の心を開き、通じ合うことはできない。話をじっくり聞いてあげ、よさを認めてあげるといふ、ごく当たり前のことをごく当たり前に行っていくたいものだ。

子らの生きる力を信じて

相談室日記

十月△日

五時過ぎ。

「これ見て」「あのね、ケーキだよ」と、興奮したような女の子の音が二階の階段付近から聞こえてきた。廊下に出てみると、やはりどうしたのかと迎えに出た母親に、一生懸命に感動を伝えようとしている子供と、それを満面笑顔で受けとめている大人たちがいる。

言葉の遅れを主訴に、相談を続けている四歳児M子ちゃんの担当者によるこの日の記録はこうであった。

【今日は、粘土遊びをした。粘土に埋めたビーズを「目玉がいっぱい」と見た私に、「ケーキだよ」と見立て直したM子の成長に驚く。

「今日は、M子ちゃんの誕生日……」と歌ってあげると、嬉しそうな恥ずかしそうな表情で、「お母さんに見せたいな」と言う。「それじゃ、お母さんに見せた後で、みんなで食べようか」「うん！」

机から落ちた粘土のかけらを拾ってあげたら「せんせい、ありがとう」という、あどけなく澄んだ声が返ってきた。多いとはいえないM子の言葉の中から探したであろうこの言葉。心に残る。】

教室ではどの子供をも温かい目で見守ってきたつもりでいた。しかし、ここで相談にかかわるようになって、「人がこわい」「だれもわたしのことを知らない」と思い悩む子供が少なからずいることを知った。

M子の言葉数はまだ少ないが、自分にじっくりと付き合ってくれる大人がいて、素敵な発見を見せたいと思うお母さんがいることを、幼いながらも全身で感じて安心していられる時を過ごしている。



その1・盗みぐせ

Q 中学校一年男子の父親からの相談。
近所の文房具店や菓子店で盗みをしたり時々お金を取るので困っています。小学校四年頃からありましたが、その都度謝りに行き弁償してきました。「どうしてやった」と聞いても、「別に」「友達に誘われた」「皆やっているよ」と答えるだけで要領を得ません。親として再三注意してきたものの、親のいうことを聞いてくれません。

A スリルを楽しんだり、面白半分だったのが、だんだん深刻になったものと思われ。グループの場合は、皆から認められたい、親や学校を困らせたいなどということでしょうか。体面を気にせず、事実をはっきりさせて責任の取り方を教える必要があると思われ。物品を返せばいいということではなく、心から悪いことをしたと親も相手方に詫言することです。共に傷つくことになりませんが、それを一緒に乗り越えようとする親の強い意志が大切です。子供は認められたい、愛されたい、自分の居場所を確保したいと考えています。それが満たされない場合に、不安のはけ口としてこうした行為を繰り返すことがあります。

その2・大人はきらい

中学校一年女子の母親からの相談。

Q 「私はなぜ生きなければならぬの?」「死ぬとどこへ行くのだろうか、どうなるだろう?」。娘が突然こんなことを言うので、とんでもないことをしかすのではないかと心配です。また、「大人なんか大嫌い」、「大人になりたくない」などと言うので、どうすればいいか迷っています。

A 周囲の人があまり大げさに取り上げない方がいいのではないかと思います。「そんなつまらない、夢のようなことを考えるもんでない」と言いがちですが、むしろ、「何か心配なことや、不安なことでもあるの?」「悲しいことでもあるの?」とか、「大人のどこが嫌いな?」などと言って子供の話を聞いてあげようとする姿勢を見せるのはどうでしょうか。また、生きていてよかったと思うような楽しかったことを思い出させたり、生きる意義、死への不安について話し合ったりするのもいいでしょう。読書の好きな子供に、こういうタイプが見受けられますが、異常でも何でもありません。一緒に頑張って話し合ったり、大目然に出て歩いたりすることは、きつと心をきっぱりとさせてくれるのではないでしょう。

その3・生活リズムの乱れ

高等学校一年男子の母親からの相談。

Q 朝起きが悪く、よく遅刻をします。夜に勉強もいづらかするようですが、テレビゲームをしたり、ラジオを聞いたりして深夜まで起きているようです。学校では居眠りをして注意されると聞きました。中学校の頃にみせた食欲は嘘のようで、この頃は朝食も抜きがちです。そのせいか、顔色もすぐれませんが、健康面でも心配になってきました。

A 希望をもって高校に入学しながら、時間がたつにつれて気力を失ったように見える時期があるようです。

これは、「これから何をやりたいのかを見失った」「起きてもやりたいことがない」など、新たな目標を見つけれられないままだったり、「やりたいけれどうまくできない」という心のひっかかりがある場合にでています。一度、高校の様子について話し合ってみてはどうでしょうか。両親の高校生時代のことを話してあげることも大変参考になるでしょう。

また、生活リズムを朝型に変える努力を家で試みることも一つの方法だと思います。ある会社で早朝出勤したら、能率が上がったという例もあります。そして、家族だらんの時間が増えたそうです。

この機会に、家庭のだらんや生活リズムなどの見直しをしてみてもいいでしょうか。



理科における変化への対応

「変化への対応」が各界で課題となっている。教育界においてもそれは例外でない。このための施策の一つとして指導要領も改訂され、今年、小学校は全面实施、中学校は移行措置最終年度となっている。変化に対し、主体的・創造的に対応する資質・能力の育成のため、

秋田県教育凡そ記

その8 理科の巻② 乳井康雄(秋田県教育研究会幹事長)
田口隆(秋田県教育研究会事務局長)

(一) 新単元・教材への対応

ア 光電池やこれに対応するモーター・圧電素子の特性理解とこれらを使用したおもちゃの製作、振り子の等時性、位置エネルギーと運動エネルギーの変換に関する学習を効果的に取り扱うための実験法、

電流に関する学習を支援するモーター製作法や実験法等に関する講習会が実施されている。

イ 人体単元に関する授業研究（五年「動物と人の誕生」等）がもたれ、動植物に関する単元における指導や保健指導との関連的指導の在り方、二次資料の活用の仕方、つくりの巧みさを体感させる活動の開発等についての研修・研究が行われている。

ウ 中学校においては、選択理科の取り扱いが話題となっている。これを位置付けた年間指導計画の作成が、各郡・市の研究会を中心として作成されつつある。

(二) 環境教育への対応

環境教育への対応 教師自身が地域の自然に目を開き、それを教材化できるようにするための野外研修も盛んに行われている。（地層、野草、野鳥の観察会、及び、標本作成に関する講習会等）。これらは、各学校の特徴を生かした環境教育に結び付いていくと考えられる。

(三) 情報化への対応

学習過程の各段階において、パソコンを含めた各種のメディアを有効に活用した授業の在り方が探究されている。

二 授業の成果を発展させる自由研究の活発化 今回の改訂に当たっては、科学の「生活化」「人間化」が求められている。このため、県

内各地で、身の回りの自然について興味・関心を高めたり、授業成果をさらに発展させるための工夫がなされている。この努力の成果が、各地区で実施されている「理科研究発表会」や「全県小・中・高等学校児童・生徒理科研究発表大会」にも表れている。

以下に、後者に見られるここ三年間の傾向を紹介したい。

(一) 小学校

ア 生物に関する研究が多く（三分の二）、動植物の生態に関する観察や調査が活発に行われている。最近、農業と昆虫の関係や酸性雨と植物の成長に関する研究等、環境問題を扱うものが多く見られるようになってきた。

(二) 中学校

ア 小学校と同様、生物に関するテーマが六割を占める（残りを、物理、化学、地学がほぼ同数で占めている。）

イ 環境問題を意識した研究が昨年度から増えている。（水質と生物の関係、水の浄化を試みたもの、粉塵、樹木の大気浄化能力等）

平成4年度(第7回)

秋田県教育研究発表会

主催 秋田県教育センター

時 平成5年2月16日~17日
所 秋田県生涯学習センター
秋田県児童会館ホール

趣 旨 県内の幼稚園、小学校、中学校、
高等学校、特殊教育学校、教育研究機関における教育研究
の成果の発表並びに交流の機会を提供し、本県教育の振興に資する。

記念講演

★演題と講師

「自然とつきあう」

文教大学国際学部教授、NHK解説委員 伊藤和明氏

日 程

	10:00	11:00	11:30	12:00	13:00	15:30
16日 (火)	受付	教育研究 奨励賞 授賞式	研究発表会 開会式	分野別 分科会	昼食 休憩	分野別 分科会
	9:30			12:00	13:00	15:00
17日 (水)			分野別 分科会	昼食 休憩		記念講演 (児童会館ホール)

★講師略歴



1930年(昭和5) 東京都に生まれる。
1953年(昭和28) 東京大学理学部地学科卒業
同 年 東京大学教養学部助手
1959年(昭和34) NHKに入局、科学番組の制作を担当
1978年(昭和53) NHK解説委員
1990年(平成2) 文教大学国際学部教授
NHK解説委員(部外委嘱)
現在に至る

『：印象に残ったのは、やはりプラネタリウムでした。プラネタリウムはなかなか見る機会がないので、貴重な体験をしたと思います。特にリクエストに応じて自由に時間や場所を変えてくれたので、生徒になったつもりで日周運動、年周運動を空間の中での位置関係として考えることができました。』

また、普段見ることができない南半球で見た星の動きや、季節による日の出の位置の違いもはっきりとらえることができました。今まで、頭の中では分かっていたつもりでしたが、実際に見ることで、あらためて驚きました。できれば生徒にも見せたいのですが、ちょっとプラネタリウムが遠くて残念です。』

『：天体の指導は正直いってあまり得意ではないので、北半球と南半球の星の動きの違いについて生徒から質問をうけて困っていたところでした。でも、今日のプラネタリウムを見てすっきりしました。私の学校にも小さなプラネタリウムがあります。理科室の片隅でほこりをかぶっています。これを機会にぜひ使ってみようと思います。』

講座に参加された先生方、貴重な感想をありがとうございます。今年の中学校理科教育第二分野研修講座は三日間の日程に、遺伝の指導法、グループ実験でのコンピュータの活用、プラネタリウム見学、気象観測の自作教材の製作

印象に残った
プラネタリウム
中学校理科第2分野 研修講座

と、盛りだくさんの内容を準備しましたが、特に印象深かった内容としてプラネタリウム見学をあげた方がたくさんおりました。

秋田県の学校の先生を対象にしたあるアンケート調査では、『天体の指導は最もやりにくい、不安でけむたい単元』、『力量不足で星の観察が実施できない』、『専門外で指導に苦労している』、『自分自身で天文観測をした経験がなく、指導に苦労している』と天体の指導に苦労している声が多く寄せられています。

私たちの秋田県は、冬期間の日照時間が東北で最も少ないだけでなく、秋田市の観測結果は都道府県庁所在地の中で最低なのです。夜間の晴天率が日中の日照時間に比例していると考えると、秋田県は冬期間に最も星が見えない県だということがいえます。そんな中で、中学校の天体学習は冬に行われていますから、天体の指導を苦手とされている先生方が多いのは無理からぬことなのかもしれません。

今回の講座が、先生方の学校の理科室にある望遠鏡やプラネタリウムの点検のきっかけになったのであれば幸いです。また夏のキャンプや宿泊訓練に生徒といっしょに星空を見上げる時間を設定されたとすれば望外の喜びです。来年も同僚の方とお誘いあわせのうえ講座におこしください。今年以上のおみやげを準備してお待ちしています。それではお元気で。

おしらせ

◆十月以降の公開講演

研修講座の一環としての公開講演を実施しておりますが、十月以降の日程・内容・講師等は次のとおりです。ふるってご参加ください。

・十月三十日(金) 午後一時から
授業改善の進め方

― 意欲を高める学習指導 ―
早稲田大学助教授 坂野 雄二

・十一月六日(金) 午後一時から
郷土を題材とした小説

東北大学教授 菊田 茂男

・十一月二十七日(金) 午前十時から
新しい学力観と授業改善の在り方

山形大学教授 沢井 昭男

◆週休二日制にともなって

週休二日制の実施に伴って、当教育センターも土曜日は業務を行っていません。用件や各種相談については平日にご連絡ください。なお、パソコン通信は今まで通り連続運用していますのでご利用ください。